

# 自治会連合会会報

第 4 号



気持ちを1つに! いち! に! いち! に! (地区体育祭)

## 活 動 報 告

☆定例総会 平成11年5月18日  
 ☆春のクリーンデイ 5月30日  
 ☆正副会長会議 4月13日・8月5日・12年1月27日  
 ☆理事会 4月28日・8月11日・12月21日  
 ☆地区別行政懇談会  
 粕壁地区 7月27日  
 武里地区・豊野地区 7月28日  
 幸松地区・豊春地区 7月29日  
 内牧地区 7月30日  
 ☆役員研修会 10月6日  
 静岡市大岩2丁目町会福祉協力会

☆各地区体育祭の実施  
 粕壁地区体育祭 10月10日  
 幸松地区体育祭 10月3日  
 豊春地区体育祭 10月17日  
 豊野地区体育祭 10月3日  
 武里地区体育祭 10月10日  
 武里団地地区体育祭 10月10日  
 内牧地区体育祭 10月10日  
 ☆自治会連合会研修会 平成12年3月5日  
 講演会 相川 浩氏(元NHKアナウンサー)

【協力事業】 ☆日赤社員・社協会員の増強への協力 ☆ごみの5分別収集への協力  
 ☆赤い羽根・歳末たすけあい運動への協力  
 ☆世界寺子屋運動への協力 (書き損じはがき・テレホンカードの回収)

# 我が街の活動紹介

● 順不同 ●



## わが「町会」の今昔

上町町会長

武井利男

上町は、江戸時代の昔から日光街道粕壁宿の中心として栄え、近郷近在の農作物を初め、その他、生活物資の集散地として穀物問屋・金物問屋・酒問屋・荒物問屋・タンス問屋・まゆ問屋・呉服屋・旅籠屋等々の蔵づくりの商家が軒をつらね活気に溢れ「蔵の町粕壁」と云える様な風情のある町並みであったろうと思われる。

明治・大正時代になると銀行や病院が数軒と劇場等もでき更に賑わいを増した。今から六十年位前までは四九市(いち)と云って毎月四と九の付く日には粕壁大通り(現在の一番街)には市が立ち露天商等が店を張り、緑日の様であった。

当時戦前の町内の昼間人口は、番頭・手代・デッチ・女中さん

や家族其の他の従業員達全てを含め数え合わせると、幾千人になるのではなからうかと推定される位大勢であったと思う。

其の後、戦争が始まり若い人は戦地に送られたり、其の他、諸々の事情之有りて、今日では何んと戸数にして百戸足らずの典型的な高齢化・少子化の町内で、小学生はたった四名、高齢者はその十数倍。然し、会員の町内を愛する気持ちは昔も今も変わらず、町内の行事も積極的に協力して下さり本当に頭が下がります。古利根川の清掃に当たっては、長寿会の方々が参加して下さるし、夏祭りの給食に当たっては、女性の皆さん方が

縁の下の力もちをして下さり、青壮年の方々には祭りの準備から片付けまでキチンとやって頂き、子供会の児童や御父兄の方々には、夏祭りのパレードが行われた翌朝早くから沿道のゴミ集め、ゴミ拾いに協力して頂き心から感謝しております。町内の老壮青が一体となつて、一つのイベントを行うと云うことは、町内会々員同士のコミュニケーションを深める上において最良のものであると思う。



粕壁大通り

お互いに、ご近所同士よるこびも悲しみも分かち合い、助け合い共に日々楽しく、与えられた人生を心豊かに生きたいものである。



## 地域を大切に後生へ

内牧一区地区長

新井堂 尤

内牧ってとても良い所ですねとよく言われます。

市内唯一の緑豊かな高台で自然が多く残されて居ます。其の中で栄町、梅田両地区は市街化区域で居住空間として発展して

参りました。私達が育ち盛りの頃は、人口も戸数も現在の十分の一位だったと話を聞いて居ます。

開発が進み三十有余年が経過し、現在の発展が見られたのです。子供達に昔の内牧地区の状況を話しても信じ難い顔をしています。そんな素朴だった内牧地区が、古さと新しさが良い意味での混在に依りコミュニケーションが深められ地域作りが進められて居るのではないかと思われまます。

或る日、私の家に訪れた方が云うのに家敷林に囲まれた私の家を見て、自分の故郷を想いだしますねって、云いながら話をした事がありました。別に特別な意のある話をした訳では有りませんが話を続けて行くうちお互いのコミュニケーションが深められて永い付き合いが出来る機会が得られました。

一対一の会話が出来ればそこに人づくり、地域づくりの源泉が生まれる様な気が致しました。兎角現在の社会世相は利那的にさえ思えてなりません。何故なのか自分をして問い掛けてみても明確な答が見えて来ません。此んな思いの中でふと、悠久不變の自然と人間世界に此んな一節を想い出しました。年々歳々花相似たり、



春の内牧公園

歳々年々人同じからず。と言われた先人の語りを敢えて強調したい。自然界は突然変異の無い限り大きな変化は無いけれども人間は何時迄も若く元気で居られない。一年一年老いて行く、其れが自然摂理ではないだろうか、その中で私自身今何が出来るだろうか。次代を担う若い人へ、後継者への地域の大切な宝「？」を継承し自然の中に世代の交替をして行く責任が有るのではないかと思つて居ります。

地域作りは地域の人みんなの手で大切に進められて行く事が私達に与えられた使命ではないでしょうか。





### 東不動院野地区

地区長

石島 忠夫

東不動院野地区は、国道16号以北で杉戸町と隣接した、世帯数104戸の農村地域です。

環境的観点からみると、昭和五十六年の耕地整理に伴い、田畑の整備が完了し、道路も以前に比べて大変良くなりました。

但し、道路が良くなった分、車の交通量が急増しているため、安全な歩道の整備を陳情している処です。

又、新倉松落しと安戸落しの両川が流れている当地区では、



神社清掃

台風時期になりますと、防災対策に各地区と連携し、全戸一丸とさせて頂いております。現在、進行中の外郭放水路工事には、多大な期待を寄せております。

文化的観点からみると、大杉神社礼大祭に奉納される神楽があります。俗にアンバ（安婆天狗の神が語源）囃子と呼ばれるお囃子と共に、茨城県稲敷郡桜川村の大杉神社から伝えられた舞楽です。江戸時代末期から始まり現在に至り、祭りに演じ続けられ昭和六十一年には、市の無形文化財に指定されております。

このような背景の当地区の年間行事を紹介いたします。

4月 大杉神社礼大祭  
神輿も出て賑やかに最後は神楽の奉納があります。

5月 春日部クリーンデー参加  
(全戸対象)

6月 運営委員会  
随時役員会を開いています。

9月 十五夜おみき  
10月 幸松地区体育祭参加  
お備謝（豊作をお祝いする会）

11月 幸松地区ごみ拾い参加  
(全戸対象)

1月 新年会（全員対象）

3月 総会  
以上が主な活動内容です。

その他防災訓練なども実施しています。

役員は、正副会長・会計・組長・十人組（祭り）等で構成されています。

これからの地区内の結束を高め、より良い自治会活動を展開して行く上にも、当地区の皆様のご理解とご協力そして、行政当局の暖かいご支援を賜りたく宜しくお願い申し上げます。



### 新しい地域づくり

を目指して

上谷原地区長

板橋 光二

上谷原地区は春日部駅西口より藤通りを大沼グランドに向け約九百メートル辺りが地区の中心で地区内には埼玉県地方庁舎春日部税務署、結婚式場の高砂殿が有ります。地区の中心である藤通りでは、毎年五月三日の憲法記念日に藤祭りが盛大に行われている事は多くの皆様にも知られていることと思います。昭和三十年頃の地区の事に触れてみたいと思います。



消火訓練

当時は五十二世帯米作り専業農家ばかりでした。その頃の川はとてきれいで、今では考えられないことですが夏になると子供達は川の中に入り、よく魚取りなどをして遊んだものです。それを食べていました。以前の様にきれいな川にして魚や貝などが住める良い環境に皆の力でしていけたらと思っている昨今です。

上谷原地区は昭和四十一年頃、春日部市西部第二区画整理事業が行われ、昭和四十五年頃には大部分完成しました。整理事業前は上谷原新田何耕地という地名でしたが、整理後は何丁目何番地という地名に変わり、組の区割りも分けられわかりやすくなりました。昭和五十年頃には五百世帯位になり、地区の活動も当時の役員数では会員の要望

が伝わりにくいということで、理事五名と一組を二十世帯位とし地域の活動にも多数の人の参加を呼びかけました。

昭和六十年頃から平成三年頃には、千五百世帯以上になり、年々増加し続けました。

私は昭和六十二年に地区長に任命され、当初地区の分割独立の方向に話しを進めましたが、毎年役員が交代するということから思う様に進まず、平成三年に豊町地区が分割発足（豊町東地区）以来、充実した素晴らしい活動が行われています。その後、平成七年には五分割し町会として発足の足掛かりがつかめ、今では月一回町会、役員会を行い、いつ独立しても町会として運営が出来ますし各町会独自の活動も行っています。

平成十一年十二月に地区分割の承認の書類も提出しました。今後皆様のご支援をよろしくお願い致します。







### 備後須賀第二町会

町会長

### 久保谷 哲夫

私たちの町備後須賀町会は、武里地区の中心に位置し、市制施行前は村役場を始め、農協や駐在所、小中学校、医院等を配し、文字通り武里地区の文化行政の中心地でありました。

戸数は四十七世帯で静かな田園に囲まれた農村地帯で専業農家が多く、桐箱製造の家が数軒ある程度でした。また、武里駅にも近く、交通の便にも恵まれ、人々の往来も多く活気を帯びた地域でもありました。

昭和三十九年頃から武里駅の



餅つき大会

南方に武里団地の造成や市街化区域の指定が進み、急激な発展を見るに至った次第です。田畑が住宅地に変容し、当地区の世帯数も最近では千五百世帯を越えるに至り、平成九年四月に当地区を五つの町会に分割され、当第二町会は誕生しました。

年間行事の主なもの、四月に新旧班長さんによる総会を開き、前年度の反省と新年度の活動方針を決めております。五月には春のクリーンデー作戦に参加協力し町の美化に努めております。

九月には備後須賀地区運動会を五町会連合で開催します。この運動会は、その後が開かれる武里地区体育祭の地区対抗種目の選手選考を兼ねた運動会であり、各町会とも積極的な取り組みで盛り上がった内容になります。

十二月には餅つき大会を実施します。役員さんをはじめ、町内の老若男女が多数参加し、盛大に行われ楽しい一日を過ごしました。

一月には非常災害発生に伴う防災対策の一環として、自主防災組織の確立と市関係機関のご指導をいただき、防災訓練を実施いたしました。緊急電話のかけ方や負傷者に対する救護方法、火災発生に伴う初期消火法の訓練等で内容の充実した貴重な体験を得たことに参加者全員喜んでおりました。

その他の事業として、平成十年度に市からコミュニティ推進地区の指定を受け、テナントの購入、町会の会員名簿の作成、餅つき大会の費用等に有効活用し、活動推進の原動力とさせていたできました。

私たちの町は、発足以来三年目の若輩ですが、会員相互の親睦と連帯意識の高揚を図りながら潤いのあるより良い町づくりのために微力ですが一生懸命努めて参ります。皆様の御指導をお願い申し上げます。



### 六軒地区自治会

会長

### 日向 武雄

私たちの住む六軒地区は、東武野田線の藤の牛島駅より南東に約一・五キロ、一ノ割駅より東に二キロに位置する新興住宅地にて世帯数七三三三世帯、人口約二千人の自治会になっております。

昭和四十年代後半までは世帯数二十世帯の純農村地帯でい

ゆる田場でありました。

昭和四十年代に入り、都心の通勤圏内として隣接藤ヶ丘文化村の開発がなされ、当地区では周辺農地のスプロール化を防ぐため区画整理事業が行われました。(六軒地区の九パーセントが区画整理地内) 昭和五十年代より急激な人口増加に伴い新旧住民の間で若干の行き違いもありましたが、時の経過がそれらも解消し最近では、住環境の整備も整い緑の混在する優良住宅地となっております。

当自治会は平成八年に法人化(地縁団体としての認可)し、区画整理記念館を集会所として取得しました。それと同時に多くのの方に自治会活動に参加していただくため、四、六班を一ブロックとして九ブロック制を実施、ブロック長はその地区内の推薦にしました。

自治会活動の基本方針は、年次総会を経て毎月開かれる幹事会(理事・ブロック長他、合計二十三名にて構成)で方針決定しています。

一方、役割分担を明確にするため、総務部・防犯部・広報部・厚生部等理事を筆頭にブロック長・班長はいずれかの部に所属し、それぞれの部において活動に参加しております。

今年度は、自主防災会も発足し、第一回の防災訓練も実施し



夏祭りカラオケ大会

たところでは。

行事としては、夏祭り・公園の草取り・地区体育祭への参加・ウォーキングと芋煮会・地区内の団体役員との懇親会等を行っています。

又、自治会に住んでおられる高齢者の皆さんとの交流を努めて図り、特に高齢者でつづついている百寿会に対し自治会の区画整理記念館を利用して戴き、カラオケ・オセロ・民謡等を開催し全面的に協力し高齢者が健全で生き甲斐のある生活ができるよう努めております。

又、子供会についても少年育成の点から出来る限りのバックアップを図っております。

その他自治会の同好会としてダンスの会・詩吟の会等がありそれぞれ活発に活動が行われております。

「住んで良かった六軒地区」を目指し、開かれた自治会をモットーに努めております。

### 備後上地区の活動報告



備後上地区長

古橋 平

私達の地区は東武線武里駅と一ノ割駅の中間に位置し、東の境界には古利根川が南北に流れ、国道四号線が通り、交通の便利な所です。

市制施行の頃は、天気の良い日には、西の彼方に富士山がよく見え長閑な田園地帯でした。

その後急速な宅地化が進み住宅が増え、人口も増加して参りました。そこで、地区の事業の円滑を図るため、先輩の役員さんが昭和五十一年に地区を分割して六自治会に構成して戴きました。其の時の世帯数は約四百戸ぐらいでした。現在は九百五十世帯に増えて参りました。

地区の組織を申し上げますと「地区長」「副地区長」「会計」「会計監査」「自治会長」「また、部会として「婦人部」「子供会」「亀楽会」「各行事担当の実行委員」「班長九十名」の膨大な組織で地区を運営しております。毎月第一日曜日に役員会を

開き、報告・連絡・相談について協議を致しております。地区の行事も年間を通して数多く役員さんの積極的な協力で推進しております。主な行事は、5月の春のクリン作戦に大勢の方が参加しております。



地区夏祭り

七月には、毎年夏祭りが始まります。自治会発足当時は一日だけでしたが、ここ十年ぐらいは各自治会の盛り上がりで二日間夏祭りを実施しております。今年七月二十四日、二十五日の日程で天候に恵まれ、盛大に実施することが出来ました。特に各自治会、各部会による模擬店、抽選会は好評でした。八月下旬には、子供会主催によるラジオ体操が午前六時半より実施されました。期間は一週間です。大人も大勢参加して気持ちの良い汗をかいていました。

九月には、お年寄りが楽しみに待っている地区主催による敬老会があります。今年で八回目の敬老会が九月二十六日に実施されました。内容を申し上げますとお笑いの芸人さんと呼んで話を聞いて、笑っていただき、その後、婦人部による心のこもった手料理を食べていただき、最後にビンゴゲームを楽しんでもらい、お土産に赤飯とおまんじゅう、タオル等を差し上げて楽しい一日を過ごしていただきました。

十月には、武里地区主催の体育祭に大勢の方が参加して楽しんでいただきました。

十一月の下旬には、毎年、餅つきと防災訓練を実施しております。今年十一月二十八日晴天の下で餅つき大会が行われ、その後の防災訓練には約二百名の参加者があり、市の防災対策室の職員と消防署の署員の方もあまりに大勢の参加者に驚いていました。

一月には、毎年地区主催による新年会を実施して親睦を図っております。

二月には、より一層のコミュニケーションと親睦を兼ねてバスにて一泊二日の研修旅行を実施しております。

今後とも地区及び各自治会々員のご理解により円滑な運営が

出来ますようよろしくお願い申し上げます。



### 町内会の体育祭 二十二年続ける！

元新宿町会長 関根 慶剛

我が元新宿町会は、現在二十世帯を数える大きな町会となりました。以前は五十世帯程度の田畑の方が多い町内でしたが、ここ二十年の間に、住宅が立ち並び、粕壁地区でも一、二を争う程になりました。九割以上が新住民の町会で、新旧解け合う何かイベントはないかと、役員会で審議の結果、町内の体育祭をやったらどうかとの意見が出て、とり合えず一回やってみることにしたわけです。当時は、一組より二十一組迄あったので、組対抗種目を五種目位作り、優勝した組にカップを贈呈することにしました。そして、賞品に特色を出しました。例えば、米三合、サツマイモ五本、ジャガイモ、ネギというように、家庭ですぐ必要な物を農家の人のご

好意で寄附してもらいました。その結果、特にお母さん達に好評で、この賞品は、現在まで継続しています。

現在では、マンションも大分建設され、一マンションはひとつの組としており、組数は二十五組に迄増えました。

町内体育祭もおかげさまで今年で二十二年を迎えたわけですが、新住民が楽しめる場を得たことで、町内のまとまりも出来、運営に大変助かっております。これも町内に緑小学校があり、場所に恵まれたことも一因としてあります。

また、前年の町内体育祭の各種目の一位の選手に粕壁地区体育祭に出場してもらい、現在、三連覇中であり、平成に入ってから十二回中、七回優勝しております。以上、我が町会の体育祭について自慢させていただきました。



町内体育祭



### 大場谷中自治会

会長  
鈴木 晃

大場谷中地区は、春日部市の最南部で越谷市と武里団地に接した安之堀川に沿って位置し、両側二〇〇世帯づつ計四〇〇世帯の地区です。

昭和四十年ごろまでは十五世帯の農家のみの列島型の田園地帯でした。武里団地建設と共に人口増となり昭和五十六年に独立した当自治会は、平成四年に組織を再編して東町、西町、南町、中町と称し四町会に区割りしました。そして、各町会より本部役員を選出して構成し運営します。

住民が気軽に参加し、意見交換の場所が必要となり、独立と同時にプレハブの集会所を建設しました。その集会所も老朽し、あらためて各戸寄付を募り、県のコミュニティ助成金を仰ぎ、平成五年に谷中コミュニティセンターとして落成、気も新たに地区の中心の場として利用しております。

四月から始まる総会では、前

年度の事業報告、決算、監査報告、新役員の承認役員は二年任期、新年度事業計画、予算等を審議決定が行われます。

役員会は二ヶ月に一度必要に応じ行いますが「一行事」二回以上の話し合いを行い体育祭を始め各行事に参加します。

谷中を安住の地として移住して来られた人々と既住民との一層の交流が必要と毎年新年会も開催します。

又、平成七年一月に起きた阪神大震災を教訓として大規模な震災が襲った場合には行政の力をあてにするよりも「まず自分たちで行動することが必要」と防災具を各町会に二セットづつ備え、毎年各町会単位で消火訓練を実施しています。又、地区全体の防災訓練は、夏祭りと共にコミュニティ補助金で購入した小型ポンプの実演、炊き出し、初期消火、地震体験の訓練を実施します。自主防災組織育成事業助成補助金で購入したテ



夏祭り

ント、発電機、炊き出し用具は防災倉庫に保管し、災害に備えてあります。

住みよい町づくりのため進めて来た当自治会は、まず話し合いで意見交換から始まり理解して協力する。その運営に積極的に参加、一丸となってより良い方向に進もうとする団結力は当自治会の自慢のする処です。

当面の課題の一つは谷中地区は従来から大場地区にあり、新旧の住所番地が入り交じりわかりにくい処があり住居表示の見直しを望む処です。

今後とも地区内皆様方の御理解、御協力により円滑な運営が出来ますようお願いいたします。



### 藤ヶ丘文化村自治会

自治会長  
中橋 修

先ず、我が自治会の存在する場所と自治会発足の歴史を簡単に申し上げます。

我が自治会は一言で申し上げますと豊野地区の中心地に存在し、ラジオの交通情報でも有名な常時交通渋滞している藤塚橋を渡って四百メートルから千五



納涼祭

百メートル先の左右が当地域であります。

入居が始まったのは昭和四十二年夏頃からです。当時は田んぼや畑の中に農家が点々とあるという田園風景だったそうです。最初は当時、藤塚地区長として活躍されていた時田源氏の下に藤塚地域の住民としてスタートしました。その後、大手戸建分譲業者の開発が順調に進行し完成時には千戸以上の大団地となる計画の為、入居の増加と共に地区長としての活動が繁雑となつた為、その指導のもとに昭和四十四年に藤ヶ丘文化村自治会として誕生したわけです。

我が自治会が誕生した事に依り藤塚地区即ち豊野地区に対し従来の農村文化の上に新生な都市型文化を注ぎ込み豊野地区の文化の向上発展に大きく貢献して参りました。

自治会には規約があります。内容を大別しますと、「総則」「組織」「役員」「事業」「会計」「補

則」の六項目から成り立っています。

主として自治会の活動は「事業」を通じて成立しています。「事業」を二分しますと(一)として、「市役所」「警察」「消防」「学校」関係に係わる公共機関との関係。

(二)としては、地域住民のコミュニケーションを図り、住み良い街造りを目的とする四大事業を行っています。それは、「納涼祭」「地区体育祭」「敬老会」「防災訓練」です。

中でも「納涼祭」は自治会各部の協力を得て催す最大のイベントです。参加延べ人数三千五百人以上の賑やかさです。

この催物に華を添える為、会場の周囲には役員先輩方々の模擬店が立ち並び老若男女が集い楽しい真夏の夜を盛り上げ、会場では出合いがあり、触れ合いがあり、感動があり、夫れ夫れコミュニティを通じて理解、協力が得られる最大の場となっております。

しかし、急速な高齢化社会の進行は、自治会活動にも多少の影響が無い訳ではありません。この様な時勢こそ各地域の自治会長さん達と語らい相談し合い、助け合い、住み良い春日部我が街を造る事を念頭におき乍ら、市民の皆々様にとって素晴らしい二十一世紀になることを祈念いたします。





### 豊町自治会のプロフィール

自治会代表

吉田 英二

私達の自治会は、豊春地区のほぼ中央に位置し、ゆりのき通りが中央を走り十六号線に接して土地区画された地域にあります。自治会は約六百世帯で構成されており、サラリーマンがほとんどです。マンションやアパートが多く一戸建てと混在しております。

昨年度、市地区長会が市自治会連合会に改組されたのを機会に、一地区一自治会であった豊町中央地区豊町自治会を一本化し、豊町自治会としました。従来の地区長の仕事と自治会の運営を、一人で担当するのは負担が多すぎると考え、代表と会長の二人制で内外の活動に対応しております。

自治会は五十五班を六ブロックに区分して構成され、渉外、環境衛生、防災防犯、体育、福祉の五つの部があり、各部長が中心になって活動しております。会議は総会、幹部役員会と班長

も出席する役員会があり、民主的な手続きを大切にして運営しております。

豊町自治会の自慢は、会員名簿を毎年更新し常に会員の実態を把握し、毎月各班長と役員との総勢七十人余が出席した役員会で活動計画の検討を行い、ニーズの収集や連絡と市広報類の配布を行っていること。豊町第四公園内の自治会館を拠点にして、スポーツ大会、いも掘り大会、ウォーキング、夏祭り大会、夏休みのラジオ体操、熟年の集い、餅つき大会、どんと焼き、防災訓練等々、多くのイベントを多数の会員の参加を得て毎年開催していることです。

現在の活動で、会員のコミュニケーションの場は整ったと思っております。会員の価値観が多様化している今日、これからの自治会運営は、高齢化社会と



熟年のつどい

少子社会に対応する地域福祉の推進並びに防災組織の充実した仕組みの構築が、会員の理解と協力を得られる事業であると認識しております。



常に住み良いまち作りを理念に、身の程に合った仕組みを、会員の皆様と築いていきたいと思っております。



### 私達の住む町

小淵島組地区

地区長

竹ノ内 正元

小淵島組地区は、春日部市六自治会連合会の幸松地区自治会二十三組織に入り、又、小淵地区が六地区（松河町、追分、本村、観音前、原前）に分かれております。島組地区は春日部市の最北部で、四号国道小淵交差点から不二山浄春院入口の小淵小学校交差点まで、西側は古利根川まではほぼ長方形の土地柄で

世帯数四百八十世帯が、和気あいあいと生活を営んでおります。当地には不二山浄春院、鎮守鷲神社、幸楽荘、小淵小学校など公共施設や無形文化財がある地域です。一年間の活動としては、三月最終日曜日の午前中に古利根川清掃を行い午後には新旧役員引き継ぎ会議をし、そして四月下旬に地区総会を開催してから本格的な年度のスタートになります。

五月には春日部市全域によるクリーン作戦が実施されますが、十月には地区主催のクリーン作戦も行われております。その後、自主防災訓練や、ファミリー広場と称し、お餅つき大会や、子供会と協賛で各種イベントを企画し地域の人達と子供達が一緒に行っております。

七月には赤十字血液センターと梅原病院さんの協賛で献血運動を実施しております。

八月には春日部市民夏祭りにも参加させて頂いておりますし、毎年小淵スポーツ団体が企画なさっております「夢のあるふれあいタウン小淵」盆踊り大会が盛大に開催されております。

十月には幸松地区体育祭を小淵六地区合同で参加致しております。団結力とパワーと成績では他の地区を圧倒して、優勝・

準優勝と栄冠をいただいております。

例年発刊されておられます自治会連合会会報を読ませて頂き新しい自治会運営にチャレンジしている所でもあります。

二〇〇〇年は小淵島組地区から小淵島組地区自治会と名称を改めスタートの準備を致している所です。

各地区に氏神様が祭られて居ると思いますが、当地区でも鷲神社が小淵の氏神社として、昔から十月十五日の祭礼、正月祭と神社の行事を執り行っております。この神社は二社体神社で、客殿が中央でし切れられ、向かって左側は小淵の鷲神社、右側は杉戸本郷の鷲神社が一つのお社で、祭られております。

全国でも珍しい神社ではないでしょうか。一度ご参拝にいらして下さい。



小淵鷲神社

## 粕壁地区の紹介

粕壁地区は、江戸時代日光街道の宿場町（粕壁宿）として栄えた所でした。現在は、市の中心部に位置し、春日部駅を東西にはさんで商業の中心地として発展してきた地域です。街並みには、デパート、銀行、寺社や桐箱、桐タンス、羽子板等の地場産業の町工場や商店がある中に住宅が混在する地域です。

その中で、東口周辺は都市景観形成重点地区として、昔の面影を偲ばせるような街路等の整備がされ、公園、道路、公園橋には、アート・アメニティ構想による19体の彫刻が設置されています。

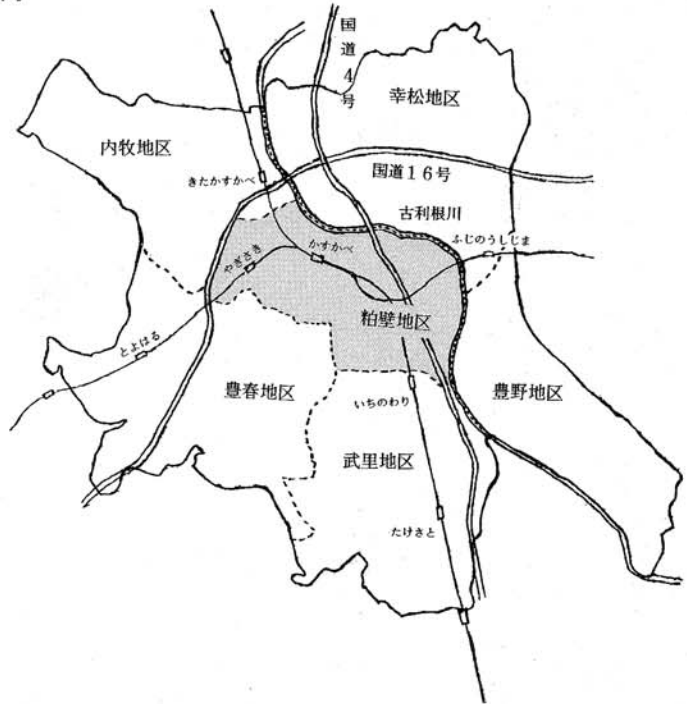
また、7月には市の代表的な祭りである夏祭りが行われ、粕壁地区の各町内会はもとより八丁目、小淵、内牧等の20数基の神輿が繰り出され、市内、市外から多くの人が見物に訪れ夏の風物詩となっています。

西口周辺は、区画整理された街並みに銀行や証券会社等のビルが立ち並び、メイン通りの藤どおりでは、毎年5月初旬に市民が中心となって創り上げる藤まつりが行われ、大勢の見物人で賑わいます。

その他には、初詣で多くの参拝者が訪れる市の総鎮守である春日部八幡神社や総合福祉センター（あしすと春日部）、中央公民館等の公共施設があります。

### 粕壁地区自治会連合会 (24組織)順不同

上町町会	宮本町町会
仲町町会	八木崎地区
本町町会	内出町会
三枚橋町会	春日町地区
一宮町町会	陣屋町会
東町町会	旭町町会
川久保町会	幸町町会
大砂町会	富士見町会
元新宿町会	元町町会
内谷町会	中央一丁目町会
大池町会	中央二丁目町会
浜川戸町会	立沼町会



発行日 平成12年3月1日	副会長 時田美野吉	副会長 斎藤茂	副会長 飯塚一夫	副会長 小菅正造	副会長 本橋正雄	会長 山崎攻志	編集員氏名

二十一世紀まであと数カ月と迫り、新しい時代が幕をあげようとしています。住民による住民のための地域づくりの声が高まる中で、「住んで良かった」という実感のもてる、より良い街づくりの為、皆様とともに力を合わせて自治会運営に取り組んでいきます。何卒、ご協力をお願いします。

### 編集後記

